

国際協力と理学療法

[講義] 第4学年 後期 選択 1単位

《担当者名》長谷川純子 j-hasegawa@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

理学療法学分野における国際協力・国際交流の実践の基礎となるリハビリテーション国際協力論を学ぶ。発展途上国の保健医療事情を含めた世界の理学療法の動向について理解し、またCommunity based rehabilitation (CBR)の概念及び障害と開発について学習することで、国際協力における理学療法士の果たす役割を理解し、関連書分野を含めた国際経済・国際交流における柔軟な問題解決能力を養う。

【学修目標】

【一般目標】

文化が代わると人々の生活も変わる。様々な地域での理学療法の実際を通し、理学療法学分野における国際協力と理学療法士の役割について理解するとともに、柔軟な思考と応用力を身につける。

【行動目標】

1. 世界の理学療法を巡る状況について、自ら調べ整理することができる。
2. CBRの概念について説明できる。
3. 国際協力の活動計画を作成することができる。
4. 国際協力に置いて理学療法士が果たす役割について述べるすることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 世界の保健医療分野における現状と課題	授業スケジュール等 保健衛生指標 CBR	長谷川純子
2	開発途上国の理学療法	海外協力隊（理学療法士）隊員としての活動紹介	長谷川純子
3 ） 5	開発途上国の理学療法	開発途上国での理学療法を考える 海外協力隊としての活動を想定したワーク 成果発表・ディスカッション	長谷川純子
6 ） 7	フィールドワーク	JICA札幌の訪問 日本の国際協力の現状についてまなぶ	長谷川純子
8	振り返り	フィールドワークおよび全体の振り返り	長谷川純子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

学修態度（授業課題への取り組み、発表その他）100%

【参考書】

河野眞 編集 「国際リハビリテーション学」 羊土社

久野研二 他 「リハビリテーション国際協力入門」 三輪書店

鈴木英樹 責任編集 「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 地域理学療法学」 中山書店

【備考】

受講希望の方は必ず初回オリエンテーションに参加すること。

参加できない場合は必ず事前連絡すること。

【学修の準備】

理学療法に関連する国際機関のホームページ閲覧（80分）

授業資料を基にした復習（毎回10 - 20分程度）

ワークに関連する情報収集（120分～）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。

(2026年度・リハビリテーション科学部)

【実務経験】

JICA海外協力隊の隊員活動、ザンビアでの調査研究

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士としての発展途上国での活動経験を活かし、リハビリテーション分野での国際協力の実情・あり方について講義・議論する。